

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	案内板・サイン	77.5	13箇所	20.8	16基	令和2年度で事業が完了したため実績値とした。	影響なし	●	
高質空間形成施設	ストリートファニチャー	26.5	植栽帯一体化ベンチ80箇所 休憩スポット2箇所	17.5	植栽帯一体化ベンチ等	該当遊歩道への設置工事が完了したため、実績値とした。	影響なし	●	
高質空間形成施設	エスカレーター	760.0	6基	10.9		設置検討中に民間の屋外エスカレーターが設置された為、歩行動線の再検証が必要である。 駅前遊歩道は、都市計画施設でもあり、関連事業である周辺のベデストリアンデッキ(遊歩道)、バスロータリー、エレベーターの整備と併せて事業を進める必要があることから、一旦、関連事業に位置付けたうえで、設置位置を再検証し、周辺事業と連動して、令和7~8年度以降に設置工事を行う予定である。 以上のことから、事業費749.1百万円を交付対象事業から減額する。	影響なし		
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査	事後評価調査		都市再生整備計画 実施後の目標を定 量化する指標数値 の確認及び事後評 価(事業対効果)の 実施		都市再生整備計画 実施後の目標を定 量化する指標数値 の確認及び事後評 価(事業対効果)の 実施	変更なし	—		●
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
パルテノン多摩リニューアル事業		パルテノン多摩	—	—	平成31年度～平成32年度	平成31年度～令和4年度	事業中	
ベデストリアンデッキ(遊歩道)改良事業		ベデストリアンデッキ	500	—	平成32年度～平成33年度	令和元年度～令和12年度	順次事業実施	
遊歩道(レンガ坂)の賑わい空間整備		遊歩道	—	—	—	令和2年度～令和4年度	事業中	
バスロータリー改修事業		駅前バスロータリー	100	—	平成29年度～平成33年度	平成29年度～令和8年度	事業検討中	都市計画施設の為、都市計画変更を含めた検討を行う必要がある。
エレベーター改修事業		ベデストリアンデッキ	50	—	平成29年度～平成29年度	平成29年度～令和8年度	事業検討中	都市計画施設内での設置改修の為、都市計画変更を含めた検討を行う必要がある。
エスカレーター整備		ベデストリアンデッキ	—	—	—	平成30年度～令和8年度	事業検討中	都市計画施設内での整備の為、都市計画変更を含めた検討を行う必要がある。
案内板、サインの整備		ベデストリアンデッキ	—	—	—	平成30年～令和2年度	実施済み	
多摩中央公園バリアフリー整備事業		多摩中央公園	800	—	平成32年度～平成34年度	令和元年度～令和6年度	事業中	
中央図書館整備事業		多摩中央公園	—	—	—	平成30年度～令和5年度	事業中	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし
指標1	多摩センター駅の乗降客数	人/日	統計たまた及び各鉄道会社ホームページより、平成27年度以降の傾向から、評価基準日の評価値を推計。	157,014	H19	173,131	H27	179,650	R3	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ● 109,828	事後評価	△	
指標2	来訪者アンケート調査	%	令和3年10月に実施したアンケート調査結果を活用。	—		12.2	H28	24.4	R3	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み ● 43.2	事後評価	○	
指標3	オープンカフェ事業日数	日	令和3年8月末までを実測値とし、9月以降を令和2年度の傾向から、評価基準日の評価値を推計。	—		13	H27	60	R3	モニタリング	R2 245	モニタリング	○	
										事後評価	確定見込み ● 308	事後評価	○	
指標4										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み	事後評価		
指標5										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	令和元年度までは、増加傾向にあったが、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、令和2年度以降の駅利用者は減少している。これは、緊急事態宣言により、観光客や通勤・通学利用者が減少したことが大きく影響しており、1日の駅乗降客数は従前値を下回る結果となった。	新型コロナウイルス(COVID-19)の流行のため、今後も外出自粛の傾向やテレワークの普及が乗降客数に影響する可能性があると考えられる。
指標2	ストリートファニチャー等の整備により、駅周辺に滞留空間が創出し、来訪者アンケート調査において、「多摩センター駅周辺のペDESTリアンデッキの休憩スペースは十分に確保されていると思いますか」の設問に対し、「5とても思う」、「4」と回答した人の割合が、目標値を上回る結果となった。	—
指標3	ストリートファニチャー等の整備により、まちににぎわい、交流が生まれる滞留空間が創出され、オープンカフェ実施店舗との相乗効果を得られることから、事業日数が増加したと考えられる。また、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、店内が密にならないようにするため、積極的にオープンカフェが実施されたことで、目標値を大きく上回る結果となった。	—
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・多言語化対応した案内板・サインの設置により、目的地を把握しやすくなった。
- ・アダプト団体と意見交換することで、ストリートファニチャーの整備に住民の意向が反映され、地域住民に親しみのある滞留空間を創出した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
オープンカフェ事業日数把握によるモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計4回 【実施時期】平成29年～令和2年 【実施結果】オープンカフェの事業日数の推移を確認することができた。	今後もオープンカフェ事業日数の計測を継続的に実施していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
アダプト団体との意見交換	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計2回 【実施時期】平成29年～平成30年 【実施結果】平成29年度のストリートファニチャー設計段階でアダプト団体との意見交換を行い、形状の参考とした。	今後も市民の意見を聞いて、まちづくりを行っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
多摩センター地区活性化推進会議	副市長、企画政策部長、施設政策担当部長、市民経済部長、くらしと文化部長、都市整備部長、環境部長 教育部長(子ども青少年部長)	令和3年10月28日	会議所管課:市民経済部経済観光課 都市再生整備計画:都市整備部都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2		指標3					
指標名		来訪者アンケート調査		オープンカフェ事業日数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設 案内板・サイン	○	ストリートファニチャー等の整備により滞留空間が確保され、駅周辺のペDESTリアンデッキの休憩スペースが改善されたことから、来訪者アンケート調査結果に影響したと考えられる。	◎	ストリートファニチャー等の整備による滞留空間の確保や、案内板・サインの設置によりわかりやすい施設誘導が図られ、まちに賑わい環境が整備されたことで、オープンカフェの実施の増加に影響したと考えられる。また、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、店内が密にならないようにするため、積極的にオープンカフェを実施していることも大きく影響している。				
	高質空間形成施設 ストリートファニチャー	◎		◎					
	高質空間形成施設 エスカレーター	△		△					
提案事業	事業活用調査 事後評価調査	—		—					
関連事業	パルテノン多摩リニューアル事業	△		△					
	ベDESTリアンデッキ(遊歩道)改良事業	△		△					
	遊歩道(レンガ坂)の賑わい空間整備	△		△					
	バスロータリー改修事業	△		—					
	エレベーター改修事業	△		△					
	エスカレーター整備	△		△					
	案内板、サインの整備	○		◎					
	多摩中央公園バリアフリー整備事業	△		—					
中央図書館整備事業	△		△						

※指標改善への貢献度

◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

—:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	駅周辺に滞留空間が確保されたことを活かし、商業施設の活性化や、更なる賑わいの創出を図る。	今後も継続的にオープンカフェを実施し、まちの賑わいの創出を図る。		
-------	--	----------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指標名		多摩センター駅の乗降客数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設 案内板・サイン	△	案内板・サインやストリートファニチャー等の充実もあり、乗降客数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、外出が制限されたことから、従前値を下回ったと考えられる。	Ⅲ									
	高質空間形成施設 ストリートファニチャー	△											
	高質空間形成施設 エスカレーター	××											
事業活用調査 事後評価調査	—												
関連事業	パルテノン多摩リニューアル事業	××											
	ベテストリアンデッキ(遊歩道)改良事業	××											
	遊歩道(レンガ坂)の賑わい空間整備	××											
	バスロータリー改修事業	××											
	エレベーター改修事業	××											
	エスカレーター整備	××											
	案内板、サインの整備	△											
	多摩中央公園バリアフリー整備事業	××											
中央図書館整備事業	××												

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	エスカレーターやエレベーターなどの歩行支援施設を整備する等、駅周辺の移動環境の充実、回遊性向上や、パルテノン多摩、多摩中央公園、中央図書館の整備を図ることで、乗降客数の増加を図る。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
多摩センター地区活性化推進会議	副市長、企画政策部長、施設政策担当部長、市民経済部長、くらしと文化部長、都市整備部長、環境部長 教育部長(子ども青少年部長)	令和3年10月28日	会議所管課:市民経済部経済観光課 都市再生整備計画:都市整備部都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
街並みが単調で駅拠点としての魅力に乏しく、歩行者交通に偏りがあり回遊性、賑わいに乏しい。	ハローキティストリートは、ストリートファニチャー等(植栽帯一体化ベンチ)の整備により、滞留空間を創出し、賑わい環境が向上した。	・多摩センター駅のメインストリートである「パルテノン大通り」は、街並みが単調となっており、賑わいのあるまちなみ環境の整備が必要である。 ・また、ベンチ等の整備は一部のエリアのみに留まっているため、パルテノン大通りや、ココリアと京王プラザホテル間等に居心地の良い滞留空間の創出が必要である。	
ペDESTリアンデッキを活用したソフト事業の展開による賑わいの創出、駅拠点としての魅力の向上が求められている。	オープンカフェの実施により、賑わいが創出され、駅拠点としての魅力が向上した。	-	
買い物客の市外への流出が進んでおり、駅拠点としては商業が低迷している。	ストリートファニチャー等の整備による滞留空間の創出や、オープンカフェの実施により、商業空間の賑わいを創出している。	・関連事業であるパルテノン多摩リニューアルや、多摩中央公園、中央図書館等の商業施設周辺の施設を改修・整備することで、地域の魅力を高め、集客力を上げることができるため、関連事業の促進が必要である。	
急激な高齢化の進行が懸念されるが、駅前、バスロータリー、多摩中央公園内含め、階段等が多く、来訪者の誰もが移動しやすい構造にはなっていないうえ、ペDESTリアンデッキや既存エレベーターの老朽化がさらに悪影響を与えている。	既存エレベーターの改修は実施したものの、駅周辺のペDESTリアンデッキやバスロータリーの改良に併せた歩行支援施設の整備は実施されておらず、移動環境が充実しているとは言えない。	・駅周辺における移動環境の充実のため、関連事業の促進が必要である。	
外国人観光客が、観光、回遊、滞留しやすい環境整備が整っておらず、多摩ニュータウンの広域拠点にふさわしい状況とはいえない。	多言語化対応している案内板・サインが設置されたことにより、外国人観光客が滞留しやすい環境が図られた。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	オープンカフェの継続	賑わい環境を拡充するため、オープンカフェを継続する。	オープンカフェの実施 イベントの開催
	案内板・サインの維持管理	案内図・サインに記載のある施設等の変更に伴い随時変更していく必要がある。	案内図・サインの改変事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	回遊性のあるまちなみの形成	駅前のメインストリートである「パルテノン大通り」にベンチ等の設置による滞留空間の創出や、近隣施設の1階部分のリノベーション等の促進を行い、近隣施設を巻き込んだ回遊性のあるまちなみ形成を図る。	既存建造物活用事業 高質空間形成施設
	駅周辺施設の改修	関連事業であるパルテノン多摩、多摩中央公園、中央図書館等の駅周辺施設の整備を着実に推進し、商業施設との相乗効果を発揮し、人の流れを生み出す。	パルテノン多摩リニューアル事業 多摩中央公園バリアフリー整備事業 中央図書館整備事業
	移動環境の充実	関連事業に挙げられている、ペDESTリアンデッキやバスロータリーの改修検討に併せ、歩行支援施設を整備するなど、誰もが移動しやすい環境の形成を図る。また、駅周辺の施設へのアクセスの際に、雨などにぬれずに移動ができるよう、屋根等の整備の必要性を検討する。	遊歩道(レンガ坂)の賑わい空間整備 ペDESTリアンデッキ(遊歩道)改良事業 バスロータリー改修 歩行支援施設整備(エスカレーター・エレベーター等) 滞在環境整備事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	多摩センター駅の乗降客数	人/日	173,131	H27	179,650	R3	確定 見込み ●	109,828	△	あり なし ●	→	令和4年度中	各鉄道会社ホームページより、令和3年度の1日の乗降客数を把握する。	
指標2	来訪者アンケート調査	%	12.2	H28	24.4	R3	確定 ● 見込み	43.2	○	あり なし	→	-	-	
指標3	オープンカフェ事業日数	日	13	H27	60	R3	確定 見込み ●	308	○	あり なし	→	令和4年度中	令和3年度のオープンカフェ実施日数を集計する。	令和3年度8月時点で133日の実施
指標4							確定 見込み			あり なし	→			
指標5							確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1							確定 見込み				→			
その他の数値指標2							確定 見込み				→			
その他の数値指標3							確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	ストリートファニチャーの整備により、オープンカフェとの相乗効果が生まれ、期待以上の効果を得ることができた。	毎年データが入力できる指標を選定することで、モニタリングの実施も容易となる。そのため、指標の設定に当たっては、データの入手・計測しやすさについても考慮することが望ましい。
	うまくいかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	-	
	うまくいかなかった点	-	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ストリートファニチャーの整備の際に、アダプト団体との意見交換により、事業効果の理解が深まった。	住民参加は、まちづくり事業推進の円滑化に加え、より事業効果のある施設内容の実現等、事業の質的向上を図る上で有効である。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

今後の都市再生整備計画事業の活用予定

・本計画の次期計画として、多摩センター駅周辺地区を計画している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和3年11月22日～ 令和3年12月10日	令和3年11月22日～ 令和3年12月10日	担当課への 電子メール、FAX	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	-				
説明会・ワークショップ	-				
その他	-				

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	中林一樹、松本暢子、秋山一弘、宇野健一、小西恭一、成瀬恵宏、村野章、横山真理	令和3年12月16日	都市計画課	多摩市街づくり条例	多摩市街づくり審査会
その他の委員	石川美紀、百鳥光洋				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—

有識者の意見	
--------	--